



「ここで
2穴中出しって
本当ですか!?!」

基本CG 31枚
おまけイラスト4枚



ちよー意味
わかんないん
ですけど!?

「暗くなつてきちやたじゃん」

「カラオケ行くんでしょ？
なんで遠回りなの??」

「なあ、ギャル子
ホワイトデーにあげた
下着つけてくれてんの？」

「え!? 急にナニ?」

「なんだ穿いてくれてないのか…」

はいてる!
穿いてるし!!

「じゃあ今すぐ見せて」

「はあっ? ぐ…ぐぐぐで!」

「マジ無理なお願いなんですけど!!」



ほ
ち
履
：
や
い
ん
と
て
る
よ
ほ
ら
：

ちゅん

「本当は気に入らなかつたから
穿いてないんだろ…」

「もういいよ、オレ帰るわ」

「まっつて、まっつて！」



「上は？ ブラは？」

「つけてるよ！」

「信じらんないなあ…」

あーもう
面倒クサッ

はっ!!

ちやんと
つけてるせん

ほら!!



「ギャル子エロすぎ♡」

「似合いすぎだから
ご褒美におっぱい
揉みくちやにしてやるわ」

やちよつ
意味わかんないん
ですけど!!

はっ!

はっ!

人来るから
もうヤメて!



「ムラムラしてきた生おっぱいを見せて」

「そんなもって吸っていい?」

ぷるん

それもう下着とか
関係ないじゃん!

ぷるん

パチッ

「フロントホック
プレゼントしといて
よかった♡」



こんなところで
でヤメ…っ!!

「ば、ばかあっ!!
ちよつと…」



「一日一回はギャル子のおっぱい
揉んだり吸ったりしないと
気が済まないんだよね(笑)」

「いつ見てもギャル子おっぱいは
神おっぱいだな♡大好き♡♡」

「それじゃあ私の魅力が
おっぱいだけみたいじゃん!
ちよーム力つくんですけど!!」

あと
こーゆーのは
二人つきりで
部屋に戻って
から...!!

「いいじゃん、この公園
あんまり人こないし
へーキ、へーキ」

おっぱい
おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい
おっぱい



「嫌がってるワリに乳首ビンビンじゃん」

うるさい!!

ああんっ
ふるあん
も…もう
やめてよ!

「ギャル子おっぱい
すっげー弱いよね(笑)」

もっ

カヤ
ンクン

もっ

カヤ
ンクン

もっ
カヤ
ンクン



おに

「ここでチンポ入れちゃっていい？」

「もうガマンできななし」

ダメに決まってんでしょ!!
マジ変態!! 信じらんない!!

おに





「ちょ、…ひとの話
聞いているのぉっ!!」

「わんわんわんわんわんわん
わんわんわんわんわんわん」

「よかった♡紐パンで」

わんわん♡



ん
ひく
この状況で褒められても
素直に喜べないんですけどオ

「ギャル子っておっぱいばっか
目立つけど、お尻もキレイで
形いいんだよね♡大好き」

んんん

す

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

んん

「ギャル子のまんこ
温かくて気持ち
いい♡♡♡♡♡」

おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ

おっ

や
ムリムリ!!
抜いて、抜いて!

おっ





「…は激しくないでって
言ってるじゃん、バカあつ」

音 大きいっ!!
誰かに聞かれ
ちやうつしよ!!
もうやめ…

…ってさらに
激しくするとか
信じらんない!

「ダイショウウブ、ダイショウウブ!
根拠は全然ないけど(笑)」



「あ……あ 本当ダメ
はあはあはあ♡ふあ」

お お願い……っ！
もうイってよあっ！！

「こんなんじゃ
まだイかないよお
もつとギャル子の
エッチなとこ
見せてもらわないと！」

「はあ？なにソレ！
意味わかんない！」



わかつたっ!!
わかつたよ!!

「ギャル子俺のチンポに
まんこ擦り付けるように
自分でお尻振ってよ♡」

「や ヤだよ!!」

「えくじやあもう
俺たち別れようか?」

でも…ちよつとだけだよ
サーユーのすぐく
恥ずかしいんだからね…

「やったね♡ギャル子大好き」

「ハ」・・・ハハハハハハ」

「あーとヒロへの」の字書へやんやんやん」

「はあはあ... じれっ... ススス」

はあはあ... はあ
もうらめえっ

こ こんなのもうムリ
恥ずかしすぎるよオ

「ギャル子って
そんな格好してんのに
すごく素直だよね(笑)」

「うんわらっ!!」



「ほら、こうしたら
お尻動かしやすいでしょ」

「もうムリだつて！」

コレ：恥ずかしすぎて
死にそうなんですから

はあ、はあ、
ムリムリ
もうムリい
っっっ!!

「ギャル子の腰使いエロ♡♡
もっと激しくお尻振って♡」

ぼん ぼん ぼん ぼん ぼん ぼん



「このままギヤル子がお尻振ってイかせくればたかもっと好きになるかも♡」

「信じらんない!!」

もういい加減
イってよあつ!!

お尻疲れたあ!

「じゃあここからは俺が死ぬほど突いてあげるね♡」



ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん

ぽん
ぽん



い…イク、イクイクっ!!

「うあっ ちよ… 急に激しくしないで!!」

「…あ …ああ、 ふあああああっ!!」

もうらめえっ!!

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

「…んんっ、俺もイク!」

「あゝ スッキリした♡♡♡♡
ギャル子すべてがエロすぎて
気持ちよすぎ♡」

そーいえば俺、チャラ男と
約束あったの忘れてたわ、

「ちよつ…最低!!」

「一緒にカラオケ
行く約束は!?!」

「やりたくなったら…
あいや、歌いたくなったら
また行こーよ♡」

バカバカつ
これじゃ
やり逃げじゃん!!

ありえないん
ですけどおっ!

帰る!



「たっくもう、
あいつやバすぎ！」

「避妊しないどころか
思い切り中出しするなんて
いくら安全日だからって
ありえないっしょ！」

…ぽんっ、ぽんっ
アイツどこに
放り投げたのよ!?

「…マジ別れよっかな」





パンツなら
ここだよ♡

!!

「酷い彼氏だねえ」

「ボクらならもっと大切にするよお〜」

アハハハ♡

セクッ

アハハ

や!? なにナニ??

ちよ...え?

いっしょにやろう

んんん♡

おにぎ

クンカ♡
クンカ♡

「ね 本当でしょ、お兄ちゃん」

「ギャル子さんはこの公園の草むらで 定期的に不純異性行為してるって」



やめてっっっ!!
勝手に触らないで
ほしいんですけど!!

「すごいキレイなおっぱい♡
大きくて柔らかくて…
なのだからとも垂れてない」

想像していた通り
まさに「神乳♡」

アンタたち誰?
何の用なの!?

「いやはやなんとも 同じクラスの
油川太(あぶらかわ ふとし)と
重男(しげお)ですよ。
忘れてるなんて寂しいなあ…」



「キミのこの豊富な肉体のせいで
ちっとも授業に集中できないんです!!
このムラムラをどうしてくれませんか?」

「そ…そんなの知らないし!!」

やダメえっ

いまソコ…敏感に
なってるからあっ!!

「ボクらは性欲が高ぶって授業どころじゃないんですよ!!」

「そうです! 短すぎるスカートで
毎日ぱんつをチラチラさせて!!」

もに♡

もに♡

あは♡

♡にん♡

♡にん♡

♡にん♡

♡にん♡

♡にん♡

♡にん♡

♡にん♡

♡にん♡

「ボクらだって好きでこんな破廉恥をしている訳ではないんです！」

ゴウゴウ
んんん

んんん

マジ意味
わかんないし！

ちよちよちよっと！
何するつもりなの!?

「これ以上成績が落ちては困るので今日こそスッキリさせていただきます!!」

んんん
んんん

んんん
んんん

「全然使っていないじゃないですか
とてもキレイなおまんこです♡」

「勝手にやりまくりのピッチと
決めつけていました…!!
正式に謝罪させていただきますば」

マジうざいんですけど
キモい! あっち行け!!

どどこ舐めてんの!?!
ど変態!! やめてよ!
いやあああああ



「ボクは性欲が抑えきれなくて
神聖なる学校のトイレで
ギャル子さんの裸を想像して
250回以上も自慰行為を
してしまいました!!」

おっ
う

ごほっ!!
げほお!!

んんん

「どうしてくれるのです!!
無駄死にしたボクの精子達と
モヤモヤして集中できなかった
勉強時間を返して下さい!」



「ずっとずつとこのギャル子さんのおまんこで
自慰行為を何百回と繰り返してきましたが、
ついに報われる日がやってきましたあ〜♡」

「ギャル子さんのおまんこだあ〜♡」

夢にまでみた
ギャル子さんの
おまんこだあ〜♡

毎日、毎日
想像してきた
ギャル子さんの
おまんこ〜♡

…ぼう、う

んぼうっっ

おっ

んんん
んんん

じじい
じじい

んんん

じじい



「今日こそボクらの大切な精子を
ギャル子さんの体内に放出し
成仏させていただきます!!」

…ぼ ぼろ
はなしてよお
おおおおっ
(もっ離して
よおおおっ)

おねはい
らはらあ
(お願い
だからああ)

あ
あ

「ギャル子さんのクチビル
柔らかくて温かくてセクシーで
けしからんです!!
ほとんど性器です!」

も… イきそうです♡





「ボクの精子、今日こそ
しっかり成仏させたいから
こぼさないで全部飲んでね♡」

んっふ...んっふ!!

んっふ!!

ぐんぐん

ぐんぐん

んっふ

んっふ

んっふ

んっふ

んっふ

「お兄ちゃんズルいよ、先に射精するなんて！」

ズルい

さあ、ギャル子さんの
生おまんこは重男が先だ
目一杯おちんちん
ネジ込んでいいよ！

気持ちいいぞ〜♡

あー

「この時間のこの公園に来れば
ギャル子さんの生SEXが
見えるかもしれないって
教えてあげたのはボクなのだ」

「すまない重男、
ついフライング
してしまっただよ」

…ふえっ？
なに勝手なこと
言ってるの???

ガチでするの???
ただだダメだよ!!
わたし彼氏としか
SEXしないし!!

あー

「マジやめて!!」

きゃあああああ
抜いてよ、バカ!
キモいキモいっ!!

うあ

あ

アンタ達キモメン双子と
SEXするなんて
絶対ありえないからあっ!!

「今日まで死ぬほど
イジメられてきたけれど
生きててよかったあ〜♡」

「どうだ太? ギャル子さんの
生おまんこのお味は?」

温かくてヌルヌルしてて
ボクのおちんちん
もうトロけそうだよ♡

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

アッ



「んああああああ
ギャル子まんこ
気持ちイイ〜っ♡」

「ヒュ〜、さすが我が弟！
ギャル子さんを
こんなによがらすなんて
イカすじゃないか」

「おんなキモメン
おちんちんと
SEXなんて
絶対ありえない!!」

「ヒュ〜じゃない
よがってない！
ばかっつっ!!」

「ギャル子さん大声出すたびに
おまんこキュンキュンしまつて
もうイきそ♡」

「ヤダヤだっ!!
キモい、キモい！」

キモい

キモい

キモい

キモい

キモい

キモい

キモい



どうだいギャル子、
ここかい？
ここがいつのかい？

なんで急に
呼びつけなの？
マジキモすぎ！！
今すぐ死んで！！

「ヒイヒイ言うて
ないっしょ！！
本気で嫌がっつてん
のっつっ！！」

「誰が色男よ！
お願いだから
マジ消えて！！」

「お兄ちゃん、ポポク
ギャル子さんをヒイヒイ
言わせてるよ！！」
「やるじゃないか重男！！
さすがはポクの弟だ！！」

「この色男♡」

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

「重男、早く代わってくれないかな
お兄ちゃんもう復活完了
カウパーが止まらないよ！」

ズ
ズ

ちよっ生とか
ありえないん
ですけど！

ゴム無しとか
信じらんない!!

「生おちんちん大好きだろ
素直になれよ♡」

ちやんと
外に出してよ!!

「アంతاなんて口調まで変わってんの!？」

グ
グ

ズ
ズ

ズ

ズ
ズ



はあはあ、
もムリ

お願いだから
早くイッてよオ

「君と同じクラスなってるから
毎日毎日一日も欠かさず
この豊満なわがままポディーを
めちやくちやにする妄想をしながら
自慰行為をしてきたんだ！」

「そう簡単にはフィニッシュはしないよ♡」

「はあはあ、イきそう♡イきそう♡」

「でもまだイかない♡♡♡♡」

「あ…あ あ イきそう♡イきそう♡」

「でもまだイかな〜い♡♡♡♡」

んあ…あ あふう♡
このはち切れんばかりの
肉感♡まさに神ボディ

ウザいキモい
早くイけっ！

おちんちん
腐って取れる！
キモメン双子!!!



「はあはあ…はあもうやめ…て
いくらなんでも激しすぎっしょ」

「おやおや？ さっきの強がりはどうしました？」

「ずいぶんと色っぽい声になってきましたね！」

ちよ…まっつて
ヤバい、ヤバい！
脳天に響くから
もう少しゆっくり

童貞マジ
ガツつきすぎ!!



「やるな重男、お兄ちゃんだって負けないぞ！」

「さすが太兄ちゃん、もう復活かい？」

「当然だ、伊達下ギヤル子さんのパンチラだけで日に20回も自慰行為してきわけじゃあないんだぞ♡」

ヒュー♡♡♡♡
兄ちゃんやるうー

ぽん
ぽん
ぽん
ぽん
ぽん
ぽん

ぽん
ぽん
ぽん

んぽうっ

もうやめ…っ
んぶう!!



「このいやらしいお尻のせいで
ボクらの勉強が妨げられて
きたんだな」

「しっかりお位置き
してやるぞ！」

…なになに？
何するつもり!?

ちょーヤな予感しか
しないんですけど!!

「アンタ達が勉強できないの
私のお尻は関係ないでしょっ」

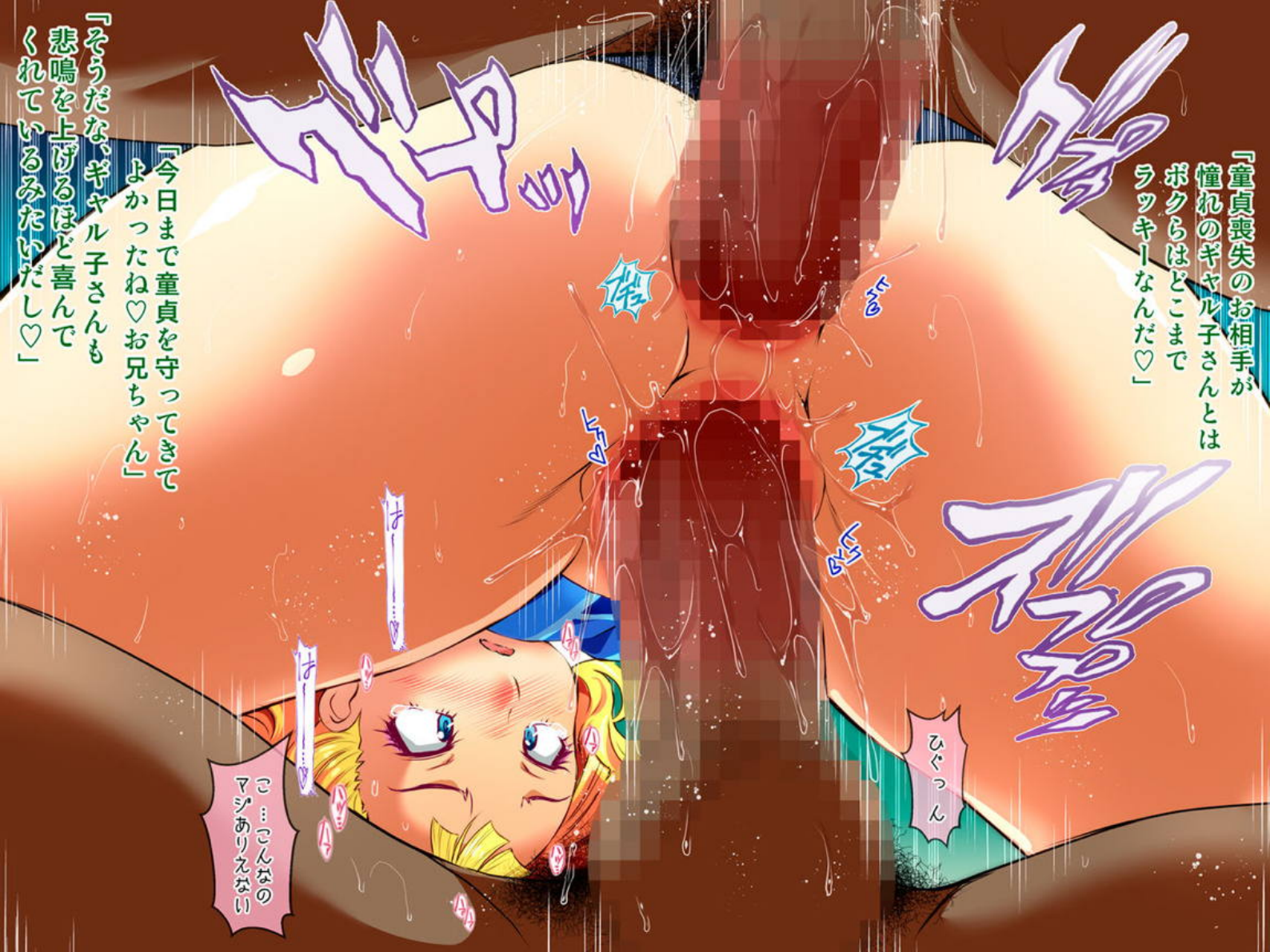


「童貞喪失のお相手が
憧れのギヤル子さんとは
ボクらはどこまで
ラッキーなんだ♡」

「そうだな、ギヤル子さんも
悲鳴を上げるほど喜んで
くれているみたいだし♡」
「今日まで童貞を守ってきて
よかったね♡お兄ちゃん」

こ…こんなの
マジありえない

ひぐっん



「このままずっとずっと
おちんちん入れていたいね♡」

ズンズン

これ以上は
マジ…無理
だから…!

ズンズン

サーセン、マジサーセン
もうカンベンして…!!

「うん、うん、明日の朝まで…いや、
このままボクらのお家に連れて帰って
死ぬまでおちんちん入れてようか♡」

いやあああああ
だれかあああ！！

たすけてえっ
つつつつつ！

「ボクらの童貞を
捧げたんだから
責任は取って
結婚してもらおうよ」

「はあ？？
マジもう限界!!
ふたりとも
キンタマ袋
破れろっつ！」

「幸せにするよ♡
ギャル子」

「ヒュっ♡
アナルSEXしながら
プロポーズなんて
兄ちゃんイカすっ♡」

「ウザっ!! 帰って
オナニーして寝ろ!!」





よかった♡



お願い
助けてっ!!

スツェ

おい、おまえ達!!
ここで何してるんだ!?

スツェ

スツェ

スツェ

スツェ

スツェ!?

スツェ

ダイナーの時間になっても
おまえ達が帰らないなんて
ただ事ではないと心配して
捜しに来てみれば：

先にデザートなんて
いただいちやってるの♡

お兄ちゃん？

…へ？
お兄ちゃん
???

うウッ…
…同じ顔が
増えた

大(まさる)
兄ちゃん！

スッテ

スッテ

スッテ

スッテ

スッテ

ガッ

スッテ

スッテ



「おまえ達ナンパなんてイカしてるじゃなにかの♡」

「しかもお相手はボクの最強オナベツトギヤル子さんとは驚きだ！」

「とりあえず回しか空いてないけどいらいかな？お兄ちゃん」

んぶううっ!!

さっそくお兄ちゃんも参加させてもらおうぞ!!

「うん、もちろんだよ！
実はこのままお家に連れて帰るうかと話してたところなんだよ」

「あのね、太兄ちゃん
ギヤル子さんと
結婚するんだ！」



「そうか、それはおめでたい！
こんなセクシーな妹ができたら
お兄ちゃん毎日可愛がっちゃうぞ」

「ありがとう大兄ちゃん
さっそく今夜にでも
パパに紹介しようかな」

お兄ちゃん
お姉ちゃん
お父さん
お母さん
お兄ちゃん
お姉ちゃん
お父さん
お母さん
お兄ちゃん
お姉ちゃん
お父さん
お母さん

「この妖艶な唇も太のモノか…
ちよつとうらやましいな」

「たまにはお兄ちゃんにも貸してな(笑)」

「もちろんだよ大お兄ちゃん
ボクの物は兄弟みんなの物
みんなで仲良くね♡」

「そうかそうか♡
それじゃあ
このおまんこも
おっぱいも
みんなものだな」

「当然だよ、
ボクらは
兄弟だモン」

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

おっぱい

「おふ、憧れのギャル子さんのお口にボクのおちんちんが何度も出たり入ったりしてると思っただけで射精しそうだ！」

ん…うきまっ♡

げほっ!!
ごほおっ

んふふうっ

「そろそろローテーションしようかおまんこ独占するのが悪いし…」

「そうだねみんなもギャル子さんのお尻の穴味わってごらんよ、きつと病みつきになるよ！」



あ…、ボクもうイきそう！

やだやだ、ヤバいってマジ中出しとかありえないっしょ！！

そ外に…ね!!
お願いだから外に出してよおっ！

グ
グ
グ

グ
グ
グ

グ
グ
グ

グ
グ
グ

ボクら結婚したんだから中出しは当然だろう♡



「気持ち良すぎて
おちんちん抜きたくないから
このままもう一回射精するまで
突きまくってもいいかな？」

ど…童貞
コフサギ…

マジ…カンペン

「はっはっは一応は
太のお嫁さんだぞ
遠慮しろよ、重男(笑)」



「くはあっ！ギャル子さんなら
ボク何回でも射精できそう…」

あ ギャル子さん、
そのままね♡
ピースやめたら
今日は帰れないよ

…んんっ！！

んぶふううううう

「そうだな、ここまで素晴らしい
肉感豊かなわがまま神パティは
他にはいないだろう、しかも美人」

「こんな全身性器のようなセクシーなお嫁さん
もらえるなんて太が羨ましいなあ」



ふうっっ
気持ちいい
っっっ♡

あーっ

あーっ

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

びび

「さあ 結婚の記念に
みんなで写真撮ろうか」

「ギャル子もうピースやめていいよ
今日のところは帰してあげるとか
全然ウソだから(笑)」

んんん

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

「ギャル子さん、
いや、お姉さん
笑って笑って♡」

おっ

おっ

おっ

おっ

